

岡山藩主が利用した後楽園の玄関口

とくべつめいしょうおかやまこうらくえん おふないりあと
特別名勝岡山後楽園御舟入跡

岡山市北区後楽園

4月から7月にかけて、岡山後楽園の史跡整備事業に伴い発掘調査を実施しました。場所は、月見橋のたもとにある御舟入跡で、岡山藩主が対岸の岡山城から舟で往来する際に使用した舟着き場の跡です。この御舟入跡の北側中央では、昨年度の調査において「雁木」という舟を乗り降りするための石段を検出しましたが(所報51号参照)、今回はその全容を明らかにするとともに、舟着き場を囲む護岸石垣や後楽園の正門にあたる御成門(南門)跡などを確認し、今後の整備に活用することを目的として調査を行いました。

その結果、御舟入の諸施設がたいへん良好な状態で残っていることが明らかとなりました。地下3mで確認した護岸石垣は、花崗岩の割石を4段ほど積み上げており、高さは1.2mあります。その上面には石を敷いており、高さ1mほどある土留め石垣との間に幅1m余りのテラスを設けていました。この護岸石垣の上に築かれた13段の雁木は、奥行き6.2m、高さ3.5mを測ります。御成



明らかになった雁木や護岸石垣(南西から)



享保元（1716）年ごろの御舟入（左）とその部分（右）（岡山後楽園事務所蔵「御茶屋御絵図」）

門に向かう上幅は4mほどですが、御召舟が接岸する下幅は約10mと広がっています。土留め石垣から2m余り張り出したこの下段は花崗岩の切石を用いてつくられており、正面はもちろん側面からも昇降できる特殊な構造となっています。また、この雁木の東側には、旭川の川岸と御成門を結ぶ通路が設けられていました。路面には川砂利がいく層にも敷かれており、改修が繰り返された様子うかがえます。

さて、御舟入と園内の間には、「水除け藪」と絵図に記された土手が築かれています。その高さは当初60cmほどでしたが次第にかさ上げされ、明治時代には1.8mにまで達しています。雁木から園内に入る通路は、この土手を斜めに横切るように設けられており、土留めを兼ねた縁石が並んで見つかりました。この通路が土手を上りきったあたりで、門の跡と思われる柱穴を確認しました。2本の柱で屋根を支える簡素なつくりは、明治時代の絵図に描かれた門の様子とよく似ています。このほか、土手の北側をめぐる園路の50cmほど下では江戸時代にさかのぼる舗装の跡が見つかります。

このように今回の調査では、絵図に描かれた御舟入の諸施設の構造やその移り変わりを確かめることができました。それらの規模やつくりは、大名庭園の玄関口にふさわしい格の高さを示しており、江戸時代の後楽園の姿をしるばせる貴重な遺構と言えます。

なお、6月16日（土）・17日（日）には現地説明会を開催するとともに、18日（月）から22日（金）にわたって発掘現場の一般公開を行いました。梅雨時ということもあって、あいにくの天気が続きましたが、約1,900名にもものほる多くの方々にご参加いただきました。（小嶋善邦）



通路と門跡（北東から）



現地説明会の様子

岡山県の南東部に位置する赤磐市奥吉原地区では、経営体育成基盤整備事業に伴い、平成23年11月から発掘調査を行っています。そのうち辺谷・成ル遺跡は、熊山山塊から北流して吉井川に注ぐ、和田川がつくりだした谷底平野の出口あたりの比較的平坦なところに立地しています。北は吉井川の旧流路、東西を吉井川に流れ込む小さな流れに囲まれた微高地上の遺跡で、弥生時代から江戸時代にかけての竪穴住居や墓、土坑などが見つかっています。

竪穴住居は、弥生時代中期の終わりから古墳時代の初めにかけての9軒以上が、ほぼ同じところで繰り返し建てられていました。また、古墳時代後期の竪穴住居では、北側に造り付けられたカマドの中からフイゴの羽口が出土しています。隣接する昨年度の調査区では鉄鉾石も見つかっていることから、この集落の人々は鉄づくりに携わっていたと考えられます。

そのほかにも、木棺の痕跡が良好に残り、16本もの石鎌が出土した弥生時代中期の墓や、貯蔵穴と思われる後期の方形の土坑群のほか、腰刀や白磁の碗が副葬された鎌倉時代の墓も見つかっており、注目されます。

6月5日（火）には、地元の赤磐市立豊田小学校6年生24名が遺跡の見学を行い、古墳時代の竪穴住居の発掘体験を通して、当時の人々の生活に思いを馳せていました。

また、7月1日（日）に実施した現地説明会は、あいにくの雨模様となりましたが、80名を超える方に熱心に見学していただきました。（内藤善史）



弥生時代の住居



副葬された白磁碗



豊田小学校発掘体験



現地説明会の様子

国道374号（美作岡山道路）の改築に伴って平成24年2月から5月に発掘調査を実施した鍵谷遺跡は、前号で紹介した小池谷遺跡から北へ300mほど離れた丘陵上に位置しています。

ここでは、東側の斜面を中心に16棟の掘立柱建物や3軒の竪穴住居、段状遺構が3か所見つけられました。出土した土器などから、古墳時代後期（6世紀後半～7世紀前半）の集落跡と思われます。

見つかった掘立柱建物には4×3間（約30㎡）の大形と、3×2間（約20㎡）の中形、2×2間（約15㎡）の小形のものがあります。これらを棟方向で分けていくと、大形建物と中形ないし小形建物で構成されるまとまりが4つほど確認できますが、切り合いや重複が認められることから同時期に存在したものではないようです。

また、竪穴住居は長さ4mほどの長方形をしていて、壁際に焼土面が見られることからカマドが造り付けられていたようです。しかし、いずれの住居でも柱穴は見つかっておらず、煮炊き専用の施設とも考えられます。

ところで、竪穴住居や段状遺構では、鉄の道具をつくる^{てったく}ときに出るカス（鍛冶滓）が多く出土しました。小池谷古墳群では、カナヅチや鉄鐸^{てったく}など鍛冶にかかわる品々を副葬した古墳も見ついていることから、鉄器生産に携わる人々が暮らしていたのかもしれませんが。いまだ竪穴住居が一般的な住まいであったこの時代に、いち早く掘立柱建物が住まいとして採用されたのは、こうしたことが関わっているのでしょうか。

なお、5月26日（土）に開催した現地説明会は天候にも恵まれ、地元はもちろん遠く岡山市からもご参加いただきました。（樋口 碧）



見つかった集落跡（南から）



大形の掘立柱建物（北から）



現地説明会の様子

やよい体験教室 「勾玉を作ろう！」

5月19日（土）、県総合グラウンド内にある津島やよい広場と遺跡&スポーツミュージアムを会場として、やよい体験教室「勾玉を作ろう！」を開催しました。当日は小学2～6年生の児童とその保護者26名が参加しました。

やよい体験教室は勾玉についての簡単なお話からスタート。お話を聞いた後、復元した竪穴住居や高床倉庫などを見学しながら津島やよい広場^{かつせき}に移動しました。いよいよ勾玉作りです。素材には滑石という非常に柔らかい石材を用



オリジナル勾玉の作成体験

いました。長方形に整えた滑石に鉛筆で勾玉を描き、鋸で角など不要な部分を切り落とします。そして、紙やすりで丸く削って勾玉を仕上げました。鋸の使用や仕上げなど難しいところもあったみたいですが、それぞれのオリジナル勾玉が完成したようです。世界でたった1つのオリジナル勾玉。思い出とともに大切にしてください。

（上村 武）



勾玉について勉強中

見学・職場体験学習

4月から6月にかけて岡山・玉野・倉敷市内を中心に合計20校の小・中学生1,425名が、センターや津島遺跡の見学・職場体験に訪れました。歴史の勉強に役立ったかな。

古代吉備文化財センターの見学



展示室（1階）



復元室（2階）

中学生の職場体験



実測図のトレース



発掘現場の見学

津島遺跡 遺跡&スポーツミュージアムと津島やよい広場の見学



展示室



復元された建物



弥生時代の水田



火おこし体験

大地からの便り 2012 一県内の発掘調査報告会一

7月28日（土）、県立博物館において開催した報告会は、日中の気温が35度を超える猛暑にも関わらず、100名の方にご参加いただきました。最新の調査成果を知る絶好の機会であるだけに、皆さん熱心に報告者の話を聴いておられました。

また、報告展として7月3日（火）から7月29日（日）までの期間、報告遺跡から出土した遺物の展示を県立博物館で行いました。



報告会の様子



報告展の様子

<報告・展示の遺跡>

- | | |
|---------------|--------------|
| ①百間川沢田遺跡（岡山市） | 県古代吉備文化財センター |
| ②小池谷遺跡ほか（勝央町） | 県古代吉備文化財センター |
| ③奈良井遺跡ほか（浅口市） | 県古代吉備文化財センター |
| ④鬼ノ城（総社市） | 県古代吉備文化財センター |
| ⑤佐山新池窯跡群（備前市） | 岡山理科大学 |

展示室から 一平成24年度の企画展示一



企画展2の様子

センターの展示室では、毎年3回の企画展を開催しています。今年度は、企画展1で岡山市^{みなみかた}南方遺跡を紹介しました。企画展2は、講座「古墳時代の考古学」に関連した展示です。古墳時代の人々の暮らしぶりにスポットを当てました。現在開催中です。企画展3では総社市^{みなみ}南溝手遺跡出土品などを展示する予定です。ぜひ、お越しください。

企画展1 「江戸時代の侍町ー南方遺跡ー」

展示期間 4月24日（火）～8月19日（日）

展示品 「三谷様」線刻焜^{こんろう}・植木鉢・タワシ^{げた}・下駄^{げた}・簀^{かんざし}・煎茶道具^{せんちゃ}・箱庭道具・ままごと道具

企画展2 「古墳時代の暮らし」（講座関連展示）

展示期間 8月21日（火）～12月25日（火）

展示品 須恵器・土師器・鏡・勾玉など

企画展3 「総社平野の弥生ムラー南溝手遺跡ほかー」（仮）

展示期間 平成25年1月5日（土）～4月21日（日）

展示品 弥生土器や石器など



糸をつくり布を織る道具

最近刊行された報告書 (平成24年2月発行分)

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」234『南方遺跡』(岡山市)

江戸時代の侍町を確認。文久元年ごろの「備前岡山地理家宅一枚図」の水路と一致する溝を検出し、絵図と遺構の照合が可能となる。また、弥生時代後期の袋状土坑、古墳時代前期の井戸も検出している。

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」235『窪木遺跡・南溝手遺跡・北溝手遺跡』(総社市)

窪木遺跡では古墳時代後期の集落が形成される微高地を確認。南溝手遺跡では弥生時代中期から古墳時代初頭の集落を確認。遺跡南端の河道からは奈良三彩や緑釉陶器、円面硯が出土している。北溝手遺跡では弥生時代前期から古墳時代初頭の集落を確認。弥生時代前期では県下最大級の竪穴住居を検出している。

センター収蔵品紹介 vol.12 —宮ノ上1号墳出土の青銅鏡—

宮ノ上1号墳は、勝田郡勝央町小矢田^{おやた}の丘陵上に造られた古墳時代中期(5世紀中ごろ)の古墳です。古墳はかなり壊れていましたが、2面の青銅鏡が見つかりました。

一つは竪穴式石室内出土の獸帯鏡^{じゅうたいきょう}の破片です。厚さ4.7mmの文様の無い平らな縁の内側に櫛歯文帯、次に「上」?や「宜子」などの文字が残る銘帯^{くしは}があり、主文^{しゅもん}には浮き彫りの靈獸^{れいじゅう}などが見られます。復元すると直径134mmとなり、主文としてはもともと靈獸や仙人など6つの像が描かれていたとみられます。この鏡は、2世紀後半から3世紀初めごろに中国の徐州地域で作られた可能性が高く、銘文には子孫繁栄の意味が込められています。鏡の持ち主がよく磨いて大切にしていたようで、表面はツルツルになっています。

もう一つは、墳丘上から出土した内行花文鏡^{ないこうかもん}です。直径は95mm、斜めになった厚さ2.6mmの縁の内側には、順に櫛歯文帯、圈文帯、そして花文が見られます。この鏡は国内で作られた可能性が高いと考えています。花文は十花文で、同じような鏡は見つかっていません。花文のバランスが少し悪いのは、円を均等に十分割することが難しかったことによるものかもしれません。デザインした人の苦労がうかがえます。

卑弥呼も好んだと言われる鏡。弥生時代から古墳時代にかけて、鏡は呪的な性格が強く祭祀などに用いられた道具であり、有力者にとっては権威の象徴でもありました。多くの鏡が使われた結果、これまで国内の弥生時代から古墳時代の遺跡や墓で見つかった青銅鏡は5,100面を超え、岡山県内では約240面を数えます。おかげで私たちは、これらを調べることで当時の人々の思想や中国までも含んだ地域どうしの関係などさまざまなことを推理できます。

しかし、宮ノ上1号墳の2面の鏡は、どのような経緯・経路をたどり最後にここに納められたのか…、これについてハッキリとは答えてくれません。(柴田英樹)

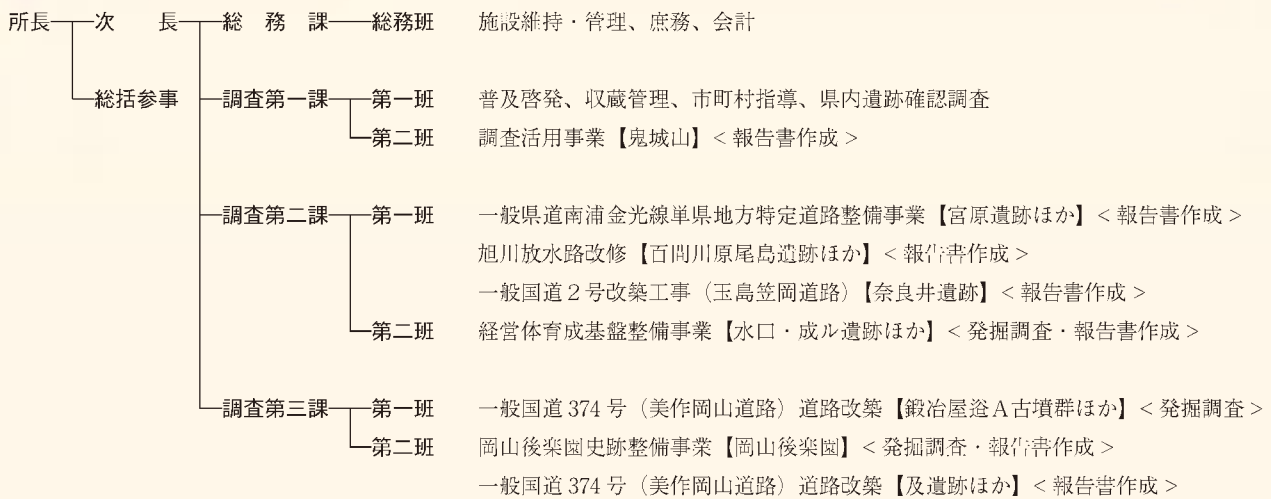


獸帯鏡の鏡背面



内行花文鏡の鏡背面

平成24年度の組織と業務



<職員>

所長 平井 泰男
次長 大崎 智浩
(総務課長事務取扱)
総括参事 中野 雅美
(調査第一課長事務取扱)

総務課 総務班

総括主幹(班長) 岡部 一
主任 行守 智和
主任 岡村 涼平
主事 堤 弘至
主事 武井 淳子
主事 尾川 華子
臨時職員 三宅 克己

調査第一課 第一班

総括副参事(班長) 柴田 英樹
主任 物部 茂樹
主任 松尾 佳子
主任 上村 武
主任 石田 爲成
(文化財課本務)
臨時職員 光延 秀典

調査第二課

第二班
総括主幹(班長) 金田 善敬
主任 岡本 泰典
主事 中原 香織
課長 弘田 和司

第一班

総括副参事(班長) 澤山 孝之
主任 團 奈歩

第二班

総括主幹(班長) 渡邊恵里子
副参事 内藤 善史
主任 杉山 一雄

調査第三課

課長 亀山 行雄

第一班

総括主幹(班長) 氏平 昭則
主任 河合 忍
主事 樋口 碧

第二班

総括主任(班長) 小林 利晴
主任 小嶋 善邦

メールマガジン「大地からの便り」読者募集中!



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm

- 交通案内 ・JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分
・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM8:30～PM5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM9:00～PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。
ただし、臨時に休館することがあります。



なくしていこう、差別・偏見・いじめ

